

令和3年度

学校評価報告書

山梨市立岩手小学校

令和3年度 学校評価について

山梨市立岩手小学校

本校における学校評価について、次のように実施しましたので、報告いたします。

1 実施の内容及び実施方法等について

(1) 自己評価の実施

学校教育目標達成のために「豊かな心と自己実現を図る力の育成」「健康な生活を送るための資質・能力の育成」「安心・安全、信頼される学校づくり」「働き方改革」という4つの目標について、それらを20に細分化した項目で、自己評価をおこなった。

(2) 児童・保護者・教職員への学校教育アンケート調査の実施

児童・保護者・教職員に対して、言葉は分かりやすくしてあるが、同じ内容のことを問うようアンケートを実施した。それぞれの捉え方にどのような違いがあるか、肯定的評価の最も高いものを4、最も低いものを1と数値化し、平均値を比較した。また、肯定的評価の割合についても数値化し、児童・保護者・教職員の評価を比較した。

(3) 職員会議での検討

自己評価及び学校教育アンケートの結果から、今年度の成果と課題を明らかにしつつ、課題となっている項目について、重点化する事項を洗い出した。

(4) 学校評価結果検討会の開催

重点化した事項をについて、それぞれどのような手立てが出来るのか、その方策を検討した。今後の方向性と具体的な取組を考え、来年度の方向性を全職員で確認した。

(5) 学校運営協議会での学校関係者評価

自己評価及び学校教育アンケートの結果をすべて示し、学校評価検討会で出された、今後の方向性と具体的な取組に対して、ご意見をいただいた。

(6) 保護者への公表

分析・考察したことをもとに、成果と課題を明示し、来年度の方向性を示した。また、学校教育アンケートの数値結果を保護者へ公表した。

2 集計結果の考察

(1) 教職員による自己評価から

学校教育目標を意識して教育活動に取り組むことが出来ているが、自己評価として成果を感じている部分や不足を感じている部分がそれぞれ数値となって現れた。とくに、や読書、生活習慣など課題と感じている項目が実際の数値として不足していることが分かった。

(2) 保護者アンケート・児童アンケートの結果から

児童・保護者の認識と教職員の認識が同じ項目もあるが、大きく異なる項目も多くある。特に「家庭学習」「あいさつ」「基本的な生活習慣」など児童実態については開きが大きい。教職員の求めている姿が高いため、この差が出ている。目の前の児童の実態に合わせた個々の目標設定が必要であり、また望ましい姿を具体的に児童・保護者に伝えていくことが必要である。また、「読書」「家での時間の使い方」について、児童はやっていると認識であるが、保護者・教職員つまり大人目からすると課題が多く、アウトメディアなど児童本人が意識できるような取組が必要である。

3 今後の方向性

今年度の学校評価から課題とされた事項について、来年度の重点項目として、具体的な取組を行っていく。

具体的には学習習慣の確立として「忘れ物」については課題と捉え、実態把握から始め、自分で考えさせる対策をおこなう。「家庭学習（自主学習含む）」については個に応じたきめ細かな対応を進めていきます。自分で考えさせる自主学習を基本として、考える時間を確保し、自主的な学習となるよう取り組む。

豊かな心の育成として「読書活動」は今年度始めた「読書カード」を継続しておこなう。また、定期的に「読書の日」として実施し読書を習慣化できるように取り組む。「あいさつ」は、児童会を中心にあいさつ運動を行い、気持ちよい自然なあいさつが出来るように根気強く指導を継続する。心の教育については重点指導項目の第一に取り組む。その中でも「言葉遣い」については様々な角度から取り組む。

基本的な生活習慣の確立では、保護者・職員ともに最も課題と感じているのが「ネット使用（ゲーム等）時間」である。家庭と協力しながらネット利用の長時間化がおよぼす影響などを学習する機会をつくる。また、客観的に生活時間が把握でき、自分で考えて改善を行えるようしていく。

学校教育目標 「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」					
重点目標	意 義	評価項目	評価指標	教師の具体的な方策	達成状況や今後の改善・実策方策
○確かな学力と自立する力の育成 確かな学力と自立する力を育ててきたこと	1	基本的な学習習慣の確立	子どもたちは、学習を進めるために必要な基本的な学習習慣を身に付けている	基本的な学習習慣について一人一人の実態を把握し、保護者と協働して継続的指導を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業の中での授業規律については確立できているが、家庭での学習習慣については徹底できなかった。今後も家庭との連携を継続していきたい。 ・年度初めに比べると減ってはきているが、忘れ物が目立つ。毎月振り返りをして保護者の確認もいただいているが、もう少し忘れ物に対する意識を改善させたい。 ・学習内容を定期的に復習をしているが、なかなか定着していない状況。宿題の内容朝学習の内容を工夫したい。 ・出ている子とそうでない子の差が大きい。 ・保護者とも連絡を取り合いながら指導を行っているが、なかなか習慣が身に付いていないと感じない。今後も続けて指導していく必要がある。
	2	楽しくわかる授業の展開	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業実践と改善を積み上げ、授業の資質向上に努めている	自ら考える力を育てる手立てを仕組み、討論的活動を取り入れた授業を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・考える活動や討論的授業は取り入れてきたが、コロナ対策のため数は例年より少なくなりました。 ・「10分授業」グループ全体の活動を仕組むことにより、児童同士での話し合いができるようになり気付けや発見が多くなってきている。（ICT端末を使用するときもある。） ・自ら考える力が弱まっている。他人任せにすることが多い。話し合いの際には、みんな自分の意見を言うことが出来ると感じている。 ・保護指導の場ではそう思うよう努めている。
	3	ICT機器の活用	教科の目的を達成するため、ICT機器を効果的に取り入れた授業を行っている	一人一台端末をはじめ各種ICT機器を効果的に取り入れた授業を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用について出きる範囲で取り入れてきたが、教材研究の時間が不足しており十分に研究できていない。 ・ICT端末導入初年度であったが、各学年で活用ができていた。 ・10分授業を効果的に活用するよう授業づくりを行っている。ツールとして使っている。 ・調べ学習では使用するが、どのような場面を使うのが効果的なのかが自分自身分かっていない。様々な事例を調べていきたい。
	4	英語科教育の充実とコミュニケーションを図る資質・能力の育成	英語においてコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力が向上している	英語に慣れ親しむ活動を通したり、[聞く][話す][読む][書く]を体験的に学ばせたりしている	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数対し、専科「ALT・JET」という環境の中で、一人一人が英語をインプットアウトプットする機会が多く設定できている。 ・一人一人の実態に応じた英語教育が行われている。 ・英語教育を通して、コミュニケーション能力が養われている。
	5	一人一人を大切にしたいきめ細かな学習指導	学校は、一人一人の学習状況を把握し、個に応じた内容や指導法で、補充的・発展的な学習指導を行っている	一人一人の学習状況を把握し、個に応じた内容や指導法を工夫し、授業等で個別に指導を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を常時心がけてきた。 ・少人数の利点を生かして、補充的な学習は実施されていると思うが、発展的な学習はあまり見られないと思う。課題への取組で個人差があると思うので、少し難易度の高い発展的な学習も個別に用意できるとよいと思う。 ・個に応じた内容や指導法を行ってこそ、個別指導に時間をつくることが出来る。今後も継続したい。
	6	家庭学習や自主学習の定着	一人一人が学習する面白さや学習の仕方に気付く、日常的に家庭学習や自主学習に取り組んでいる	個に応じた学習の面白さや方法に気付かせながら、家庭学習や自主学習に取り組めるよう指導の工夫や支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方や自主学習の進め方など折に触れ指導してきたが、学習する楽しさを感じてくれているかは分からない。 ・宿題だからしている様子が強く感じられます。「わかる喜び・できる喜び」を感じさせ、学ぶことの楽しさを味わわせる授業を行うと共に、学習したことを生活と結びつけてもらうように努めています。 ・まだまだ自習の面白さや方法が身に付いていないから指導していきたい。そして内容の充実さに繋げていきたい。 ・自主学習のやり方に偏りがある。（漢字、計算練習など）あまり、自由に取組むことがない。そのための指導が十分ではないのも原因だと思う。 ・個別に家庭学習の仕方について指導しているが、実際に子供たちがやってくれることがほぼない。今後実際にやったものを提示してみたい。 ・出ている子とそうでない子の差が大きい。 ・自主学習では、ただ出すだけでなく、例を出しながら子どもが興味がありそうなものを出すこともあるが、「自主学習」については定期的に児童自ら行うということがない。今後も工夫を行ってきたい。
○豊かな心と自己実現を図る力の育成 豊かな心と自己実現を図る力を育ててきたこと	7	学習意欲を高める評価と指導	子どもたちは、自分の良さや特性に気付く、互いの努力や成果を認め励まし合いながら意欲的に学習している	一人一人の子どもの良さや特性を受容し、努力や成果を適切に評価し、認め励まし合えるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人をほめ、励まし支えてきたが、子ども同士の認め合いがなかなか深まらない。 ・褒められる中で、お互いを励まし合い、認め合う活動を取り入れている。 ・子供たち同士で、欠点や失敗ばかりを挙げてしまっている。できていることにに対して褒めるなど、子供の手本になるような行動をもっと増やしていきたい。
	8	あいさつの奨励	「おはようございます」「こんにちは」等のあいさつが自然に出来る子供の育成を図っている	子ども達に良い見本として教師自ら気持ちよいあいさつを実践している	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについては自らも実践し児童への指導も行ってきたが、児童の返事の定着が不十分である。 ・年度当初と比べ、先生方の努力により、かなり改善されている。しかし、まだまだ「あいさつあふれる学校」には努力が必要だと思うので、あえて厳しく自己評価しました。 ・朝の挨拶など子供たちより先に言うように意識している。「ありがとう」などもないが、子供たちがもっと言い合えるようになってほしい。
	9	自己肯定感を高める教育活動の充実	子どもたちは、友達や教師との人間関係がうまくいき心身の健康が保たれていたり、互いに認め合い明るく元気に活動したりしている	子どもたちが相談できる雰囲気づくりに努めたり、長所を伸ばす指導を行ったりしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の児童の相談に乗ることはできたが、じっくり語り話を聞いて上げる時間が作れなかった。また、ばたばたと慌ただしい姿を見てしまっていた。 ・児童が相談できる雰囲気作りを努めたり、良いところを褒めることにより自己肯定感を高めるように努めている。 ・雰囲気が変わったときなど、すぐに声をかけるようにしている。子供たちから相談された時は、必ず時間を取るようにしている。
	10	読書活動の推進・習慣化	日常的に子どもが本に親しむ機会を設けることで、子どもの読書量が増え、読書の幅が広がっている	日常的に子どもが本に親しむ機会を設け、読書が生活や学習の中に習慣化されるよう指導を工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、読書の機会を設けたり、本の紹介をしてきたりした。 ・朝読書や読み聞かせ、図書集、読者の会と組んで、2学期後半からの取組も進んでいるが、実質的な読書量の増加や幅の広がりなどの効果が出て定着するまでには少し時間が必要だと思う。 ・児童向けに必ず読む本の紹介を、朝の会や帰りの会などに定期的に取り入れることで、読書が習慣化されるように指導している。 ・本は良く借りているが、しっかり読んでいるかわからない。 ・図書室の授業を入れることや、自分も図書室の本を借りるようにしている。空いている時間に読書を進めるようにしている。
	11	いじめ・不登校・暴力のない集団づくり	児童理解を深め、心身の問題の早期発見、早期対応に努めている	日常的に児童との関わりをもち、早期発見・早期対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・児童観察や把握に努めたが、日々忙しく、児童との関わりが不十分であった。 ・日常的に児童一人一人と会話することを心がけ、問題が生じた際には児童が納得するまで話を聞き、個に応じた指導に努めている。 ・気になる言動はすぐに注意をしている。 ・校内で、共通理解ができているのを感じている。 ・クラス内で言葉遣いや、注意の仕方などの指導を特に行っている。また、少しの変化に気づけるように、できるだけ声掛けを行っている。
	12	道徳教育の充実	自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つ道徳教育を行っている	年間指導計画や全体計画に基づき児童生徒の発達に即して計画的、発展的に展開している	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき計画的に行うことはできたが、発展的な展開は少なかった。 ・児童の発達に応じて計画を立てて展開しているが、道徳的判斷力・心情などの育成に繋がっていない。 ・教科書の内容を自分たちの生活に置き換えて考えさせている。いろいろな場面での気持ちや考えを聞くようにしている。
○健康な生活を営むための資質・能力の育成 健康な生活を営むための資質・能力の育成を育ててきたこと	13	基本的な生活習慣の充実	子どもたちは、基本的な生活習慣が身に付いており、健康・安全に気を付けて生活している	「早寝・早起き・朝ごはん」運動など家庭と連携し取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部会や懇話会などで、各家庭に生活リズムの改善をお願いしてきた。一部改善傾向にあるが、全体的にはまだ不十分である。 ・家庭と連携を取るが改善されず難しい。例えば授業参観や懇話会などで話す機会を設けたとしても、改善されるかどうかは疑問である。 ・出ている子とそうでない子の差が大きい。 ・家での様子などを聞くように心掛けている。早く寝ている子どもは会話の中で褒めるなどを継続したい。 ・家庭との連携は密に実施しているが、まだ家庭での生活習慣を改善するところまでには達していない。今後も粘り強く、子どものよりよい発達のためにという視点で指導を続けていく。
	14	体力向上への取組	子どもたちは、進んで体を動かしたり外で遊んだりして運動に親しんでいる	子どもたちが、進んで体を動かしたり外で遊んだりできる楽しい活動を工夫し取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が多く、学級レクを設けることは少なかった。また、休み時間など児童会活動に使うことがあった。 ・なかなか外に行きたがらない子どももいるので、一輪車以外に遊んだりしている。一日の中で一回は外で遊ぶように促している。 ・11月から色々な仕掛けを行うことにより、子ども達が笑顔で楽しく活動している姿が見られるようになった。個人的にはもっと校庭にて一緒に活動するようになりたい。
	15	健康・安全教育の充実	学校は、子どもたちが健康や安全について意識できる機会を設け、健康・安全教育を進めている	子どもたちが健康で安全に過ごせるよう指導したり、学校・保護者・地域・校医等と連携した取組を行ったりしている	<ul style="list-style-type: none"> 日々指導は行っている。 ・学校内での通こりや身体運動について声掛けを行っている。 ・表裏読書を中心に、様々な機会に保健指導（保健室前の掲示物も含めて）が行われている。
○安心・安全・信頼される学校づくり 安心・安全・信頼される学校づくりを育ててきたこと	16	安全管理・教育環境・指導体制の整備	私は、施設・設備を点検し、安全に生活できる環境整備を行っている	日常的に子どもたちが、安全に活動できるような環境を整えている	<ul style="list-style-type: none"> ・教室環境など、日々整えることができた。 ・できるだけ教室に物を置かないようすることなど行っている。
	17	地域人材の活用や地域行事への参加・協力	学校は、地域の人材を教育活動に活用したり、教職員や子どもが地域行事に積極的に参加・協力したりしている	地域の人材を活用する授業を企画・運営したり、地域行事に積極的に参加・協力したりしている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策もあり、地域の人材を活用することはできなかった。しかし、書道教室や世代間など授業時間を使って地域の人材を生かす行事がありよかった。 ・地域の行事がコロナの関係で行われていないが、あれば参加してみたい。
	18	家庭・地域への情報発信	私は、授業参観やお便り等を通して、学校や児童の様子を家庭に伝え、積極的な情報発信をしている	参観やお便り等を通して、学校の教育活動や児童の様子を保護者や地域に情報発信し、学校理解に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り児童の様子を伝えるようにしたが、不登校児童の家庭にどれだけ配慮ができたか考えると、心配である。 ・不安な子があったり、協力を依頼する際には、連絡帳や電話を頼むようにしている。また、授業中の作品なども掲示するようにしている。 ・定期的な家庭に電話連絡・家庭訪問を実施し、学校での頑張りの様子や課題点を共有している。
	19	保護者からの信頼と連携	私は、気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、連絡を取り合いながら、保護者と協働した教育を進めている	相談しやすい雰囲気とカウンセリングマインドをもって、保護者の相談を真摯に受け止め、すばやく対応している	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連絡は密にするようにしたが、不登校児童の家庭とは、連絡が取りにくい状況になってしまった。 ・不安な子があったり、協力を依頼する際には、連絡帳や電話を頼むようにしている。 ・定期的な家庭に電話連絡・家庭訪問を実施し、学校での頑張りの様子や課題点を共有すると共に、悩みや不安を受け止め対応することができた。
○働き方改革 働き方改革を推進してきたこと	20	関連機関との連携	学校は、教育相談や特別支援教育等の外部機関と連携し教育活動を展開している	外部の機関と連絡をとりながら、連携した取組を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に向けて、個々の問題と向き合い、外部機関と連携することができたものもあったが、外部機関につなげることができなかったものもあった。 ・現在、外部の機関と連絡を取り合っていない。
	21	業務改善に向けた工夫の実施	勤務時間外に在時間意識し、業務改善や効率化やた働き方に努めている	担当業務の見直しをはかり、勤務時間外に在時間の短縮に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は在時間外を少しずつ短縮していくことができたが、2学期は仕事が増え進捗に遅びてしまっている。効率化を図るのも限界である。 ・できる限り勤務時間外に業務を終わらせるように、やりとを明確化したり、予定を立てている。 ・休日の動物物の世話や世代間ふれあい活動、大袈取組、校務支援システムの活用などで、昨年度に比べると先生方の遅退時間も早くなっている。

R 3 年度学校関係者評価

2月25日（金）の第3回学校運営協議会において、「R 3 年度学校評価の分析結果と今後の方向性」を示し、今後の学校運営の方向性について、ご意見を頂き、承認していただいた。各項目で出された意見については以下の通りである。

1 自己評価・学校教育アンケートについて

- ・読書が少ないのは、テレビやゲームと関連性がある。読書の習慣は幼い頃（入学前）からの読み聞かせなどの取組が大切である。
- ・図書室の利用状況は多く貸出冊数も良く、様々な取組を行っている。読解力や想像力を高め、豊かな心を育むためには保護者や保育所との連携も必要である。とくに保育園でどのようにしているかが大切である。

2 学校評価の分析結果と今後の方向性について

○確かな学力と自立する力の育成

- ・子ども達の忘れ物はどうしてもしてしまう。今後も親も忘れ物がないように気をつけていきたい。
- ・忘れ物については自分のことを言われているようでドキッとした。子どもの頃を思い出すとやはりどうしても忘れ物をしてきた。それを減らすことを考えてあげるのは良いと思う。
- ・少人数の学校なので、先生が一人一人の性格や弱点をよく分かっているので、良い指導につながっていると思う。

○豊かな心と自己実現を図る力の育成

- ・元気よくあいさつしていると思っている。中学生も小学校の延長であいさつをする。
- ・登下校時に、庭先にいるとのぞき込んであいさつをしてくれる。学校での教育が染みついていて感じる。
- ・言葉遣いとは他人を思いやることであると思う。そこに焦点をしぼることは素晴らしい。ぜひ取り組んでほしい。子どもの現状をしっかりと捉えているからこそ、本校の実態に合った取組ができる。心を育てるとは、命の教育になりがちだが、「言葉遣い」としたところが素晴らしい。子どもにとって分かりやすい良い出発点である。この取組が、いずれ命の教育につながっていく。
- ・読書もあいさつも言葉遣いもどれも大切である。社会で生活する上で必要であり、小・中・高校でもしっかり指導していくことが必要。学校評価から今後の方向性を出していることは、子どもや孫を預ける立場としてはありがたい。
- ・先日、少人数教育についての新聞記事があった。一人一人に寄り添った教育や一人一人に目が行き届く教育、きめ細やかな教育ができる点が岩手小の良さである。

○健康な生活を送るための資質・能力の育成

- ・我が家はゲームをあまりやっていない方だと思う。約束を守って使用している。しかし、他の児童の話を見ると夜遅くまでゲームをしていることがあると聞いている。
- ・習慣を身につけさせるにはどうするかを考える。仲間と一緒に取り組むことがよいのではないか。

○安全・安心、信頼される学校作り 働き方改革

- ・時間外勤務については県教育委員会等が声をかけており、減っていると思うが、持ち帰り業務があると聞いている。時間外勤務を減らしても、持ち帰り業務が増えてしまったら意味がない。

3 全体を通して

- ・1つ1つの項目について、方向性がしっかりと示されていることが良いと思う。方向性もよく整理されている。
- ・一人一人に応じた対応ができています。課題については、家庭や地域と連携して取り組んでいくことが必要。安心・安全な学校（地域）のために、学校からもどんどん要望を出してほしい。
- ・学校運営協議会は地域と共にある学校づくりが目的なので、有効活用していくことが必要である。試行錯誤しながらよりよい学校運営協議会にしていくことが必要である。